

「桜峰小学校で伝承する郷土芸能の取組」

1 学校名

鹿児島市立桜峰小学校

2 学年・人数

5年・6年 12名

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

- ・ 5月12日（木）、5月18日（水）総合的な学習の時間（桜峰小体育館）
- ・ 10月8日（土）発表リハーサル（桜島多目的グラウンド）

(2) 発表の日時・場所

- ・ 5月22日（日）本校春季大運動会（本校校庭）
- ・ 10月9日（日）桜島地域大運動会（桜島総合体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称 まつうちかまおど 松浦鎌踊り

(2) 由来 1600年（慶長5年）関ヶ原の戦いに敗れた島津氏第17代義弘公は、翌年郷土の士気を鼓舞すると共に緊急の場合にはいつでも郷土を自らの力で守ることができるように、踊りの中に武芸の技を加えたとされ、また五穀豊穰を祈願して踊られるともされている。

(3) 構成 6人一組で踊り、前後に3尺棒の踊り手が4人、真ん中に鎌棒の踊り手が2人という組み合わせで進行する。平成28年度の5・6年生は男女合わせて12名だったので、この構成を2組作った。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年5月の小学校運動会においてこの「鎌踊り」を伝承・披露するために、松浦集落の鎌踊り保存会の方々へ依頼を行い、児童への細かい指導をお願いしている。また10月にある桜島地域の運動会でも披露するために、会場である多目的グラウンドでリハーサルを行い、広い会場でのフォーメーションや入退場等の確認と踊りの細部にわたる最終チェックを行う。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

保存会の方々が伝承している「鎌踊り」の形が、大人の男性による勇ましい踊りであり、使用する鎌に似た棒なども、児童が使用するには危険が想定されるので、単に3尺棒のみの使用にとどめると共に、踊りの内容も児童が踊りやすいように少し変更しつつ、歌に合うような工夫を行っている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

その年、初めて取り組む5年生も、5・6年生の伝承が続いていることを知っており心構えができています。低学年の頃から目にしているので踊りの覚え方は早く、6年生等が個別に細かい点の修正を加えていくことでほぼ踊ることができるようになります。ただ、保存会の方々が学校へ来て、踊りの重要なポイントを指導されるに当たり、若干の時間不足も感じられる。

小学校の運動会で毎年披露するが、装束への着替え等に時間を要するため、プログラム順を午後一番へもってきて、昼食を終えた子どもから着替えたり、保存会の方による本番前の忠告をいただいたりすることができるようにした。

また、秋の地域大運動会における鎌踊りの披露では、小学生12名による演舞は人数が少ないため、鎌踊り保存会の方々自身も事前に練習を繰り返し、全員駆けつけて当日児童と一緒に演舞を披露し、地域の皆様が一堂に見守る中で拍手喝采を浴びることとなった。



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

(参加児童)

- ・ 見てくれている人から拍手をもらったからうれしかった。
- ・ 拍手をもらえて良かったけれど、はずかしくてあんまり踊れなかった。
- ・ 失敗したらどうしようと不安になったりしたこともありました。
- ・ たくさんの人の前ではずかしかったけど楽しかったです。かまのかわりに棒を使う踊りを今まで見たことがなくてそんなかまおどりをおどれてうれしかったです。
- ・ （保存会の人たちの踊りを見て）かまおどり保存会の人たちは私たちよりアクロバティックだったのですごいと思いました。
- ・ （保存会の人たちの踊りを見て）やっぱり本物はちがうなあと思いました。声の大きさや踊りもちよっと難しそうでした。さすがだなあと思いました。

(教職員)

- ・ 子どもたちが郷土の伝統文化を伝承し、地域の人たちの前で披露する活動はとても尊いと思う。地域で育つ子どもたちの心に深く焼き付き、将来にわたって地域のことを記憶してくれるものと考えます。

(保存会)

- ・ 郷土に伝わる鎌踊りを小学生が覚えて地域住民の前で踊ってくれることに対し、ありがたく、また頼もしく感じています。若い人たちが伝承を続け、未来に伝えていってくれることを願っています。